



論文・レポート作成法【その1】

○論文作成の基本ステップ

step 1 テーマ設定

「論文」「レポート」といっても作成目的によって記載すべき内容や作成方法が大きく異なります。学習成果を報告するためのレポートなのか、卒論なのか、興味のある事柄を追求したいのか
作成目的は明確に テーマ設定は慎重に！

step 2 資料収集

テーマに応じて必要な資料を集めます。
一般図書だけでなく、さまざまな媒体(図書、雑誌、新聞、web 資料など)から幅広く情報収集することが大切です。
図書館をフルに活用してください！

step 3 執筆・構成

序論や結論のポイントを意識して構成を決定しましょう。
【ポイント】
序論: 目的、範囲、言葉の定義、調査方法、仮説等
結論: まとめ、意見、提案、問題点、課題等

step 4 推敲

誤字・脱字といった文章そのものの以外にも、引用文、参考文献がきちんとかかっているかどうか確認します。内容が作成目的、テーマから外れていないかチェックしながら読み返します。
必要に応じて step2 以降を繰り返しましょう。

○図書と雑誌の違いは・・・

図書： 単数あるいは複数の著者の著作物で、単発で出版。

1 冊の図書の中に複数の論文が収録されていることもある。

雑誌： 同じタイトルの下で、定期的に終期を予定せずに刊行され、一連の巻号が付与されている。

各号には複数の論文や記事が収録されており、それぞれの論文や記事が独立した著作物である。

<和雑誌の表記例>

1	2	3	4	5	6.
丸茂新「都市交通の混雑料金に関する一考察」『商学論究』（関西学院大学）47(5), 2000, 1-17					
1.著者名	2.論文名	3.掲載雑誌名	4.掲載巻号	5.刊行年	6.掲載ページ

- * 論文名は「」か“”に入れます。雑誌名は『』に。雑誌の場合は通常出版地と出版社は省略されますが、類似の雑誌名が多いときには()にいれて記述されることもあります。また、掲載巻号を47巻5号と記述したり、掲載ページをp.1-17や1-17頁と表記したりという違いはあります。
- * 新聞記事では著者名が記載されていないので、記事名が最初に書かれていることが多いです。
- * 雑誌はそこに掲載された論文や記事単位で掲載されます。よって、その論文や記事のタイトルと掲載されている雑誌のタイトルが識別できるようにしましょう。また、洋雑誌は略氏名で記述されることも多いので、注意してください。正式な雑誌名がわからない場合は相談係でお尋ねください。
- * 主に米国では、学術雑誌(journal)と一般雑誌(Magazine)は明確に区別され、一般雑誌の記事は新聞記事と同様に扱われます。よって、一般雑誌の記事を記述するときは巻号ではなく刊行年月日がい用いられます。

○論文作成に役に立つ図書

図書館では、論文・レポート作成に役立つ図書を多数揃えています。OPACで検索してみよう。

タイトル	編著者名	出版年	請求記号
大学・短大課題レポート作成の基本	斉藤喜門	1986	816/SA6/1 (2F)
心理学実験・研究レポートの書き方: 学生のための初歩から卒論	B.フィンドレイ著 細江達郎訳	1996	140.7/FI1/1 (BM2)
近代文学現代文学論文・レポート作成必携	論文・レポート作成必携編集委員改編	1998	910.7/KI1/1 (B1)
英文レポートの書き方とすぐに使える例文集	石井隆之、喜多尊氏、豊岡正明	2001	836/EI6/1 (2F)
論文の教室: レポートから卒論まで	戸田山和久	2002	816/TO6/1 (2F)
レポート・論文の書き方入門	河野哲也	2002	816/KO5/2 (2F)
やさしい文章術: レポート・論文の書き方	樋口裕一	2002	816/HI3/1 (2F)
インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	2003	816/OG4/2 (2F)
レポート・論文の書き方上級	桜井雅夫	2003	816/SA12/2 (2F)
レポートの作り方: 情報収集からプレゼンテーションまで	江下雅之	2003	816/ES1/1 (2F)
レポート作成法: インターネット時代の情報の探し方	井出翁、藤田節子	2003	816/ID1/1 (2F)
文献調査法: 調査・レポート・論文作成必携 情報リテラシー読本	毛利和弘	2004	015/MO1/2 (B1 別置)

○上記リストのものは短大図書館所蔵の一部の図書です。大学所蔵の図書も利用可。

- * 著作権法第 32 条により、研究目的で自分が書いた論文などに他人の著作物を引用することができます。その場合、引用部分を「」に入れるなどそうとわかるように明記した上で、必ず典拠をしめさなければなりません。典拠を注として表示したり、参考文献リストをつけたりすることには決まった記述ルールに従うことが必要です。

— ONE POINT! —



図書館ホームページから多数のデータベースを利用することができます。論文・レポート作成には、これらのツールも是非利用しましょう。

- ★事実調査をする → Japan Knowledge、知恵蔵(聞蔵 II)など事典・辞書ツールを使う。
- ★雑誌記事を検索する → MAGAZINEPLUS、NDL-OPAC(国立国会図書館)、大宅壮一文庫雑誌記事検索 CiNi(NII論文情報ナビゲーター)

- * オンラインデータベースやウェブサイトからの情報が参照・引用されるようになったのはごく最近のため、まだその参照・引用ツールが確立していません。必ず URL とアクセスした日を記述することが要求されています。